

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国家試験で合格点を取れる実力をつけるため、今までインプットした知識をを適切にアウトプットできるように、実際の国家試験を用いて演習を重ね、知識の定着を図る。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。				
授業回	学習内容				備 考
1	関連法規（生衛法） 【到達目標】生衛法が何を規定しており、どのような制度を整えているかを説明できる				
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法） 【到達目標】美容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかのイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる				
3	関連法規（顧客に関する法律・保健所） 【到達目標】美容師・経営者として関わる顧客に関してどのような法律が用意されているか説明できる。保健所と美容師との関わりを述べることができる				
4	問題演習 1 【到達目標】美容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
5	問題演習 2 【到達目標】美容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
6	問題演習 3 【到達目標】行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
7	問題演習 4 【到達目標】総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる				
到達目標	国家試験合格に向けて、美容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3)を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	関係法規・制度（公益社団法人日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	星		
科目名	衛生管理(公衆衛生)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	歴史・統計・法律・医学・保健行政の観点から、公衆衛生の歩みと発展、公衆衛生制度について理解する。 また、人と環境の相互関係を理解し、環境衛生に努める意義を見出し、美容師として人々の心身の健康維持・増進に貢献する正しい情報と知識を得る。				
授業回	学習内容			備 考	
1	オリエンテーション 【到達目標】 ・シラバスの内容から本講義の学習目的を明確にできるようになる。 ・1年次に学習した内容について振り返り、自身の得意・不得意分野を明確にできるようになる。 公衆衛生の概要と消毒法の歴史について／美容師に関わる公衆衛生と保健所について 【到達目標】 ・公衆衛生の目的と歩み、公衆衛生発展と消毒法の歴史について説明できるようになる。 ・保健所の機能と事業について把握し、美容業との関わりについて述べるようになる。			小テスト (1年次の理解力評価) 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
2	保健(母子保健、成人・高齢者保健、精神保健) 【到達目標】 ・保健制度と事業内容について説明できるようになる。 ・人口動態統計を把握できるようになる。 ・生活習慣病とその対策について説明できるようになる。				
3	環境衛生の概要、空気環境と衣服・住居について 【到達目標】 ・環境要因について理解し、健康に与える影響について説明できるようになる。 ・空気環境と衣服と住居における健康との関わりについて述べるようになる。			小テスト 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
4	上水道の供給と下水道・廃棄物の処理について／衛生害虫による健康障害について ／環境保全について 【到達目標】 ・上水道の供給システム、下水道と廃棄物の処理システムについて説明できるようになる。 ・衛生害虫による被害と対策について説明できるようになる。 ・美容所における排水の水質汚濁について考えられるようになる。				
5	授業内容の振り返り／国家試験対策 【到達目標】 ・重要な知識について振り返り、美容師として公衆衛生の必要性を再認識できるようになる。			小テスト 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
到達目標	1. 公衆衛生の歴史と発展、消毒法の歴史について理解できる。 2. 環境が人々の健康に影響する要因を知り、環境衛生に取り組む必要性を理解できる。 3. 美容師として、公衆衛生の向上に必要な能力を身に付けることができる。				

評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない
テキスト	公益社団法人日本理容美容教育センター『衛生管理』 ・ 雑賀智也『よくわかる公衆衛生の基本としくみ』秀和システム(第2版)

学科	美容科	担当教員	星		
科目名	衛生管理(感染症)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	人と病原微生物による感染症の歩み、感染の仕組み、感染症対策についての知識を得る。また、グローバル社会における新たな感染症の出現にも目を向け、美容業務の中で感染症の広がりを未然に防ぐ対応力を身に付ける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	オリエンテーション 【到達目標】 ・シラバスの内容から本講義の学習目的を明確にできるようになる。 ・1年次に学習した内容について振り返り、自身の得意・不得意分野を明確にできるようになる。			小テスト (1年次の理解力評価) 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
	人と感染症について 【到達目標】 ・感染症発見の歴史について説明できるようになる。 ・感染症の種類を以下の3つに分類し、感染症を類別できるようになる。 ①法律上の分類 ②病原体の身体への侵入・媒介経路による分類 ③病原体の種別による分類				
2	病原微生物について 【到達目標】 ・下記①②が説明できるようになる。 ①微生物の種類、形と大きさ、構造について ②微生物に必要な栄養、発育と増殖について				
3	感染症の予防について 【到達目標】 ・下記①②③が説明できるようになる。 ①微生物の病原性と人体の感受性について ②病原体による汚染・感染・発病に至るまでの経過について ③免疫の仕組み、予防接種の種類と効果について ・感染症発生の3大要因(感染源・感染経路・宿主の感受性)について理解し、3大要因に対する予防対策について説明できるようになる。			小テスト 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
4	美容と感染症について 【到達目標】 ・美容師の健康管理と感染症の知識の重要性について述べるができるようになる。 ・感染症法による感染症の分類について理解し、疾病とその症状、予防対策について説明できるようになる。				
5	授業内容の振り返り／国家試験対策 【到達目標】 ・重要な知識について振り返り、美容師として感染症を予防する必要性を再認識できるようになる。			小テスト 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	

到達目標	1. 感染症の基礎知識や法律上の分類、感染症発生の要因を理解できる。 2. 感染症における予防対策の重要性を理解できる。 3. 美容師として、感染症に対応する能力を身に付けることができる。
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない
テキスト	公益社団法人日本理容美容教育センター『衛生管理』 ・ 雑賀智也『よくわかる公衆衛生の基本としくみ』秀和システム(第2版) ・ 左門新『元WHO専門委員の感染症予防Book』三笠書房

学科	美容科	担当教員	星		
科目名	衛生管理	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	消毒に関連のある美容師法関係法令を基に、消毒効果の確実性と安全性に優れた消毒法を選択し、実践する知識と技術を身に付け、感染症の予防に努め、安全を提供する意識を高める。				
授業回	学習内容			備 考	
1	オリエンテーション 【到達目標】 ・シラバスの内容から本講義の学習目的を明確にできるようになる。 ・1年次に学習した内容について振り返り、自身の得意・不得意分野を明確にできるようになる。 消毒の基礎知識と意義について 美容の業務と消毒との関係について 消毒法と適応上の注意について			小テスト (1年次の理解力評価) 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
	【到達目標】 ・殺菌・消毒・滅菌・防腐・除菌について違いを列挙できるようになる。 ・消毒に関連のある美容師法関係法令の重要性を理解し、衛生管理を怠ることによる危険性について述べるができるようになる。 ・下記①②を理解できるようになる。 ①理学的消毒法と化学的消毒法に必要な条件について ②消毒薬の使用・保存について				
2	理学的消毒法と化学的消毒法について／優れた消毒法と実施上の注意について 【到達目標】 ・理学的消毒法と化学的消毒法の種類、用途と殺菌効果を理解し、長所と短所について比較できるようになる。 ・下記①②を理解できるようになる。 ①適切な消毒法を選定する目安 ②消毒の一般的な注意事項				
3	各種消毒薬(消毒薬の希釈・器具の扱い)／美容所の消毒の実際について／美容所の清潔法の実際について 【到達目標】 ・消毒薬を希釈する濃度計算法や希釈に用いる器具の扱い方を理解し、正確に使用する技術を身に付けることができるようになる。 ・美容所の消毒設備と消毒の対象となる物品等に適した消毒法と注意点について説明できるようになる。 ・美容所の清潔保持のため、実施すべき消毒法について述べるができるようになる。			小テスト 過去の国家試験問題 と授業内容より出題	
4	美容所における衛生管理(実践) 【到達目標】 ・衛生管理要領を理解し、具体的な対応と対策について述べるができるようになる。				

5	授業内容の振り返り／国家試験対策 【到達目標】 ・重要な知識について振り返り、美容師として消毒法の技術の必要性を再認識できるようになる。	小テスト 過去の国家試験問題と授業内容より出題
到達目標	1. 消毒法の目的、種類と特徴について理解できる。 2. 感染症予防のため、美容所の衛生的環境の維持と向上について理解できる。 3. 美容師として、安全で適切な消毒法を実践する技術を身に付けることができる。	
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	公益社団法人日本理容美容教育センター『衛生管理』	

学科	美容科	担当教員	西		
科目名	保健（人体の構造及び機能）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について具体的な知識を知る				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章～2章；頭部・顔部・頸部の体表解剖、骨格器系 【到達目標】美容師の日常業務で大切な部位の名称や大きさを計測する基準点を理解する。骨格器系では頭蓋骨重点に学ぶ			まとめと過去問	
2	第3章；筋系 【到達目標】骨格器中心に理解する			まとめと過去問	
3	第4章；神経系 【到達目標】神経の重要部分である脳や神経系に情報を送る感覚器系の構造と機能を理解する			まとめと過去問	
4	第5章；感覚器系 【到達目標】五感「見る・聞く・味わう・嗅ぐ・さわる」を理解する			まとめと過去問	
5	第6章；血液・循環器系 【到達目標】全身に送るためのポンプ(心臓)とパイプ(血管)の構造と循環器経路及び血液の分類と機能を理解する			まとめと過去問	
6	第7章～8章；呼吸器系、消化器系 【到達目標】呼吸器系と消化器系の機能と構造を理解する			【到	まとめと過去問
7	人体の構造及び機能に関して、まとめと問題。解説及び解答 【到達目標】実際の問題を解くことで合格レベルまで上げる			全体のまとめ・問題と解答	
到達目標	美容師として頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わるために、必要な人体の基礎知識を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	西		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚と皮膚の付属機関について、美容業の特徴とともに基礎知識を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 皮膚の構造【到達目標】皮膚の複雑な機能・構造を理解する			まとめと過去問	
2	第2～3章 皮膚付属器官の構造及び皮膚循環器系と神経系【到達目標】脂腺・汗腺・毛・爪の構造と機能を理解する。皮膚における血管やリンパ管の働きを理解する			前回の復習・まとめと過去問	
3	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能【到達目標】皮膚とその付属器官の対外保護作用、体温調節作用、知覚作用、分泌排泄作用、働きについて理解する			前回の復習・まとめと過去問	
4	第5章 皮膚と付属器官の保健1項～7項【到達目標】皮膚の外界からの影響とその変化、体の内部の影響と変化について理解する			前回の復習・まとめと過去問	
5	第5章 皮膚と付属器官の保健を理解する。8項～11項【到達目標】皮膚及び毛、爪の保護と手入れについて理解する			前回の復習・まとめと過去問	
6	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患1項～11項【到達目標】皮膚の異常と種類、疾患及びその原因、治療法、特にカブレについて理解する			前回の復習・まとめと過去問	
7	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患12項～19項【到達目標】分泌異常・化膿菌・真菌・ウイルス・衛生害虫による疾患について理解する			前回の復習・まとめと過去問	
8	皮膚科学のまとめと問題。解説及び解答【到達目標】実際の問題を解くことにより今の自分のレベルを知り合格への目標をたてる			全体のまとめ・問題と解答	
到達目標	美容師として施術や薬品からの皮膚への影響を理解し、お客様の頭皮・毛髪・肌の健康管理ができる知識を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	阿見		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	香粧品の性状や分類、安全性などを学び、美容師として、必要な基礎知識を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1～3	1章 香粧品概論・香粧品化学を理解するための基礎化学 (1物質の構成・2物質(水)の構造)			まとめプリント 練習問題	
4～6	香粧品化学を理解するための基礎化学 (3溶解とコロイド～7たんぱく質)			まとめプリント 練習問題	
7～8	2章 香粧品用原料 (1節香粧品の対象となる人体各部の性状～6節色材)			まとめプリント 練習問題	
9～10	2章 香粧品用原料 (7節香料～9節ネイル、まつ毛のエクステンション用材料)・3章 基礎香粧品			まとめプリント 練習問題	
11～12	4章 メイクアップ用香粧品・ 5章 頭皮・毛髪用香粧品 (1節シャンプー剤～3節パーマ剤)			まとめプリント 練習問題	
13	5章 頭皮・毛髪用香粧品 (4節ヘアカラー製品～5節育毛剤) 6章 芳香製品と特殊香粧品			まとめプリント 練習問題	
14	香粧品化学のまとめ・総合演習 (1)			まとめプリント 練習問題	
15	香粧品化学のまとめ・総合演習 (2)			まとめプリント 練習問題	
到達目標	香粧品の成り立ち、性状、使用目的や香粧品分類の定義、社会的意義や特性、 法的な根拠、製品の安訂正を含めた安全性を理解する				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る学生は受験することがで きない				
テキスト	香粧品化学(日本理容美容教育センター) プリント				

学科	美容科	担当教員	高橋（み）		
科目名	文化論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	日本・西洋のヘア・メイク・服装の移り変わりを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	日本の理容業・美容業の歴史				
2	ファッション文化史（日本編） 縄文・弥生・古墳時代 中世・近世Ⅰ・Ⅱ				
3	ファッション文化史（日本編） 近代（明治・大正・昭和20年まで）				
4	ファッション文化史（日本編） 現代（1945～1970年代）				
5	ファッション文化史（日本編） 現代（1980年代～現在）				
6	ファッション文化史（西洋編） 古代エジプト、古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン、中世ヨーロッパ				
7	ファッション文化史（西洋編） 近世・近代				
8	ファッション文化史（西洋編） 現代				
9	礼装の種類				
10	まとめ・国家試験対策①				
到達目標	現代までの髪型・メイク・服装の変化の過程を理解し、美の成り立ちやあり方を知り、新しいデザインの創造の糧を身に付ける				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	文化論（日本理容美容教育センター）プリント				

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	文化論(絵画法とデッサン)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	デッサンを通して描画力・表現力・集中力・持続力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	ヘアデザイン画4			学生持参：鉛筆、消しゴム、練りゴム、スケッチブック、カッター(鉛筆削り)、資料	
3・4	ヘアデザイン画5			〃	
5・6	ヘアデザイン画6 完成～鑑賞			〃	
7・8	人物クロッキー クロッキー（速写）を何枚も描くことで、人物の全身像をよく観察し、全体のバランスを捉える力を養います。 クラスメイトをモデルに、15枚前後のクロッキーを描きます			〃	
9・10	コラージュ技法を使ってイメージを固める1 新聞や雑誌の記事を切り貼りする「コラージュ」技法を用い、各々が持つ／理想とする世界観を視覚的にまとめます。最終的に人物の全身（ヘア・メイク・ファッション）とその背景を一枚の紙面に表現します。 第1回目では、資料を見ながらヘアデザインやそれに合わせた全身のスケッチをします			学生持参：切り抜き可能な資料、鉛筆、消しゴム、練りゴム、スケッチブック、カッター(鉛筆削り)	
11・12	コラージュ技法を使ってイメージを固める2 第2回目では前回のスケッチをより明確なものにし描画します。また、適した切り抜きを用意、描画した画面上に構成します			〃	
13・14	コラージュ技法を使ってイメージを固める3 完成～鑑賞 第3回目では前回から引き続き制作のち、最後の時間でお互いの作品の鑑賞をします。作品にはタイトルとコンセプトを添え、イメージを言葉にすることも経験します。			〃	
15・16	絵の具を使った絵画法 絵の具を使って色彩のある描写の練習をします。絵の具の使い方によって表現方法や伝わるイメージが変化することを学びます			学生持参：水彩絵具、筆、パレット、水入れ、鉛筆、消しゴム、練りゴム、スケッチブック、カッター（鉛筆削り）	
到達目標	観察力・表現力を身につけ高める。日とるの作品に長い時間をかけて取り組み、持続性のある集中力を身につける。人体がどのように構成されているのか、描画を通して理解する				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				

12

テキスト	プリント
------	------

学科	美容科	担当教員	大塩		
科目名	文化論(造形学とデザイン)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	22
教育目標・ ねらい	構成力・造形力・表現力を身につける。自分自身について知る				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	【立体造形】 1 コピー用紙（または新聞紙）を使用。時間内に頭部に装着できるヘッドピースを作ります。造形を通じて頭部の構造をよく知り、また多角的に作品を作り上げることへの意識を高めます。			学生持参：ハサミ、 カッター、ホチキス、 テープ、のり	
3・4	【立体造形】 2 ブルーシート一枚を使用。時間内に自由に加工し、人体の全身に装着できる立体作品を作ります。全体のバランスを確かめながら、多角的に作品を作り上げることへの意識を高めます。【グループワーク】			//	
5・6	【伝えるデザイン】 1 雑誌の見開き面をデザインします。特集内容は「My Style」。他者に見せることを前提に内容をまとめます。横向きのA3ケント紙を雑誌面に見立て、記事を作成します			学生持参：資料、筆記 用具、スケッチブック、 ハサミ、のり、そ の他材料	
7・8	【伝えるデザイン】 2 雑誌の見開き面をデザインします。特集内容は「My Style」。他者に見せることを前提に内容をまとめます。横向きのA3ケント紙を雑誌面に見立て、記事を作成します			//	
9・10	【頭部マネキンを使用した造形】 1 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します			学生持参：マネキン、 資料、画材、スケッチ ブック、グルーガン、 各自必要な材料	
11・12	【頭部マネキンを使用した造形】 2 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します			//	
13・14	【頭部マネキンを使用した造形】 3 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します。			//	
15・16	【頭部マネキンを使用した造形】 4 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します			//	
17・18	【頭部マネキンを使用した造形】 5 練習用マネキン（カットウィッグ）を使った立体造形の制作。 背景まで含めたトータルで世界観を表現します			//	
授業回	学習内容			備 考	

19・20	【自由制作】1 テーマは「美」。制作相談や作業	学生持参：資料、筆記用具、スケッチブック、その他必要な道具・材料
21・22	【自由制作】2 テーマは「美」。作品発表と鑑賞	学生持参：完成した作品
到達目標	構成力・表現力を身につける。主体性を持って自己表現することで達成感を実感する。 視野を広げ、芸術に対する理解を深める	
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない	
テキスト	プリント	

学科	美容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理（マーケティング）	学 年	2年	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1	「運営管理」テキストを活用した「価値の知識」の習得と小テスト 【到達目標】 ・美容業のサービスの価値の中身を説明できるようになる。				
2	テキストを活用した「マーケティング知識」の習得と小テスト 【到達目標】 ・美容業のマーケティングで押さえるポイントを説明できるようになる。				
3	標的の決め方と強みの出し方、業界の損益計算書の指標について 【到達目標】 ・マーケティングとは何か、ターゲットを細分化して決めることが出来るようになる。 ・店舗の経費配分の比率が分かるようになる。				
4	貯金の大切さの理解と班別に創作したコンセプトの確認（前半） 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
5	班別に創作したコンセプトの確認（後半） 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
6	班別に作成した仮想店舗の損益計算の確認（前半） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
7	班別に作成した仮想店舗の損益計算の確認（後半） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
8	マーケティングを中心にした模擬テスト 【到達目標】 ・ _____ を説明できるようになる。				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を課そう体験すると同時に、国家試験科目の「運営管理」に対応できるものとする。				
評価方法	前期試験結果に加え、各小テスト合計点を加味した合計100点満点で評価する。 なお、所定時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	運営管理(日本理容美容教育センター)及びプリント プリントは紛失すると履修できないので、必ずファイリングし、授業に持参すること				

学科	美容科		担当教員	高橋(み)・高橋(淳)・深井・岡田	
科目名	美容技術理論		学 年	2	実施時期 前期・後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 120
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業時間数	学習内容				備 考
1～5	序章・1章・2章	・美容技術理論を学ぶにあたって ・美容用具 ・シャンプーイング			
6～10	3章～5章	・ヘアデザイン ・ヘアカッティング ・パーマメントウエービング			
11～15	6章～8章	・ヘアセッティング ・ヘアカラーリング ・エステティック			
16	学期末試験	前期末学科試験			
17～22	9章～11章	・ネイル技術 ・メイクアップ ・日本髪			
23～29	国家試験対策授業	・美容技術理論1 ・美容技術理論2			
30	学期末試験	前・後期期末学科試験			
到達目標	美容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、美容師としての基礎的知識を習得する。				
評価方法	各期筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科		担当教員	高橋(み)・高橋(淳)・深井・岡田	
科目名	美容実習		学 年	2	実施時期 前期・後期
授業形態	実習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 300
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容				備 考
1～6	リアシャンプー	リアシャンプーを通じて、技術姿勢やお客様に快感を与えられるようになる為に、シャンプー理論と技術ならびに職業人として、お客様から好感を持たれる接客力の習得。			32時間
7～12	ワインディング (デザイン巻き)	国家試験合格を見据えながらデザインワインディングを巻くために、必要な技術の習得。			12
13～18	レイヤーカットスタイル	国家試験合格を見据えながらレイヤーカットスタイル（試験課題）をデザインするために、必要なヘアカッティング理論と基礎カット技術の習得。			12
19～24	ヘッドスパ	ヘッドスパを通じて、シャンプー台の使い方や技術姿勢、お客様に快感を与えられるようになる為に、シャンプー理論と技術ならびに職業人として、お客様から好感を持たれる接客力の習得。			12
25～31	オールウエーブ セッティング	オールウエーブセッティング技術に必要な理論ならびにオールウエーブセッティング技術（フィンガーウエーブ、ピンカール）を習得する。			18
32～59	資格試験課題 (第1課題)	国家試験合格レベルのレイヤースタイルカットに必要なヘアカッティング理論と基礎カット技術を学ぶ。			142
60～72	資格試験課題 (第2課題)	国家試験合格レベルの第2課題に必要な技術を学ぶ。			72
到達目標	美容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、美容師としての基礎的技能を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	齋藤		
科目名	芸術・ファッション（美容色彩学）	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	美翔祭を通して作品づくりに必要なカラー技術 を学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	イメージについて 【到達目標】 イメージの分析・今後チームとのイメージ共有の基本を学び、チーム で共有できるようになる			プロジェクタ・筆記用 具・配色カード	
2	パーソナルカラー 【到達目標】 イメージの応用、考え方の1つであるパーソナルカラーを知る。パー ソナルカラーを知ることによってイメージを分析できるようになる				
3	イメージの落とし込み 【到達目標】 チームでの作品のイメージを具体的に共有する。美翔祭の作品のビ ジュアル・キーワードからイメージを明確にする				
4	モデルの毛髪診断・カラー薬剤知識 【到達目標】 毛髪診断・ダメージ診断・カラー履歴についての見極め方を知り、モ デルの診断をできるようになる				
5	カラープロセスの作成 【到達目標】 モデルへのヘアカラーをするためのカラー剤について・カラープロセ スを作成する				
6	カラーテクニック（塗り方） ウィッグ・トレーニングクリームを使用したブリーチ塗布のプロセス確認、モデルへ のカラーを意識した練習をする			ウィッグ・カラー用 具・タオル・カラー用 ホイル・ドライヤー・ コーム トレーニングクリーム	
7	カラーテクニック（カラーデザイン） 【到達目標】 ウィッグ・トレーニングクリームを使用したウィービング・スライシ ングなどのホイルワークの基礎を学ぶ				
8	カラーテクニック（カラーデザイン） 【到達目標】 ウィッグ・トレーニングクリームを使用したグラデーションカラーな ど美翔祭で使用するテクニックの実習				
9・10	ウィッグカラー実習 【到達目標】 美翔祭に向けてのカラーを想定したウィッグを使用してブリーチ・カ ラー剤を使用した実習			カラー用具・タオル・ ラップ・カラー用ホイ ル・ドライヤー・コーム ウィッグ・カラー剤・ OX6%	
11	モデルカラー実習（トレーニングクリーム）・パッチテスト 【到達目標】 美翔祭に向けてのカラーを想定したトレーニングクリームを使用した プロセスの確認をする。・ブリーチカラー剤使用モデルへのパッチテスト実施				
12・13	モデルカラー実習 【到達目標】 美翔祭に向けてのヘアカラー				
到達目標	美翔祭を通して色とヘアカラー 技術を知り・モデルに表現する				

評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない
テキスト	プリント カラーチャート

学科	美容科	担当教員	井川		
科目名	芸術・ファッション（広告宣伝）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	マーケティングの一部、「広告活動」の重要性を理解。本講義では、今話題のサービスやヒット商品を取り上げ、そのヒット要因を解説、一方では、今社会が抱えている問題にスポットを当て、その解決策をグループで議論、発想力と伝える力を学ぶ。				
授業回	学習内容			備 考	
1～2	「広告の基礎知識」について ・メディアリテラシー（情報を読み解く力） ・各種メディアの特性を理解、その情報収集（取捨選択）と活用方法について知る				
3～5	情報モラルとメディアリテラシーについて 各メディアの特性を理解、SNSの効果的な使い方と注意点を学ぶ マーケティングと広告について マーケティング（4 P、3 C、S T P）				
6～8	広告表現テクニックを学ぶ 購買心理と顧客満足（事例紹介） 相手を説得する効果的な表現方法とは、SPツールの作り方 今話題のヒット商品やサービスを分析、その裏側を探る。				
9～10	「情報収集」→「理解/判断」→「行動/表現」 「デザインレイアウトとコピー・ライティング」				
10～12	「広告表現テクニック」を学ぶ。 ～伝える技術を学ぶ～プレゼン能力を高める 心に響くキャッチコピーの作り方、プレゼンテクニックについて 問題解決とアイデア出しのフレームワークを紹介				
13～15	プレゼンテーションの実施「テーマ：未定」 （一人90秒プレゼン）～クラウドサービスを使って投票、結果発表				
到達目標	社会で汎用性スキル、「伝える力」を習得。問題解決、アイデア出しのフレームワークが学べる。幅広い業界知識が身に付く。各メディアの特性を理解、情報の取捨選択能力が高まる。自分の意見を論理的に説明できるようになる。				
評価方法	最終日に学生によるプレゼンを実施。内容について学生自身の投票（クラウドサービス利用）による自己評価を踏まえ、教員が100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				
学科	美容科	担当教員	漆原		

科目名	芸術・ファッション（簿記）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16
教育目標・ ねらい	将来、店舗の経営に従事する際、財務的視点からの経営管理ができるよう、簿記の基本的な考え方から、損益分岐点分析への応用を理解することを目的とする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	・ 簿記の基本的な考え方、勘定科目について				
2・3	・ 財務三表 （貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要）				
4	・ 収益構造 （店舗経営における、財務的視点）				
5	・ 損益分岐点 （損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例）				
6	・ 売上・経費・収支計算 （チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成）				
7	・ 売上、経費、収支計算 （チームごとに店舗経営のシュミレーション資料作成）				
8	期末試験				
到達目標	簿記の基礎的・基本的内容の習熟を図る。				
評価方法	期末筆記試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	・ 授業毎にプリント配布				

学科	美容科	担当教員	武智		
科目名	芸術・ファッション（店舗設計）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1	最新の店舗デザイン 【到達目標】 様々な店舗を知り、将来造りたい（勤めたい）サロンをイメージする				
2	店舗に関わる法的概要 【到達目標】 理容師美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける				
3	色と光の基礎知識と演出手法 【到達目標】 色は光に依って見え方が変わり、技術がより良く見える手法を身に付ける				
4	店舗レイアウトの考え方 【到達目標】 行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける				
5・6	理美容業界のマーケティングと最新繁盛サロンの事例 【到達目標】 理美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える				
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、勤めたい店（開業したい店）のイメージを作り上げる				
評価方法	提出レポートにより100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない。				
テキスト	(株)タカラスペースデザインが実際に施工した最新の店舗デザインパネルを使用 パワーポイントでの映像およびプリント				

学科	美容科	担当教員	阿見		
科目名	舞台演出 (美翔祭【トータルヘアショー】)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	テーマに合わせた色や形、質感など細部にこだわった表現技法を学び、ヘアショーで表現する				
授業回	学習内容			備 考	
1	テーマ決定 ・ テーマ背景をクラス全員で理解する ・ テーマに対し、全員が同じ解釈であること ・ 世界観を固める				
2	モデル選出 ・ モデルはウォーキング練習開始 ステージ構成決定（モデルウォーキング台本、音楽、照明）				
3～8	美翔祭りハーサル①				
到達目標	ヘアショーを通し、魅せる技術の習得及び、テーマに合わせた色や形、質感など細部にこだわった表現技法を習得する				
評価方法	課題作品により評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				
学科	美容科	担当教員	古荘		

科目名	表現技術(理美容フォト)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	撮影時、構図や色合いなどイメージをカメラマンに説明し、イメージ通りに カタチにすることができる				
授業回	学習内容			備 考	
1	カメラの使い方 【到達目標】 カメラの構造 設定、ピント、明度、構図について理解する				
2	カメラの使い方 【到達目標】 シャッタースピード絞り、露出、ISO感度、測光方式、ピント、フォーカスについて 理解する				
3	写真の色合いを調整する 【到達目標】 ホワイトバランス、色相、彩度、コントラストを理解する				
4	レンズについて レンズによる表現の違いを学ぶ 【到達目標】 単焦点レンズ 広角レンズ 望遠レンズ 魚眼レンズ マクロレンズの特徴を理解 する				
5	人物撮影 バストショット 【到達目標】 学習した撮影の技法を使い、シーンに合わせた撮影が出来るようになる				
到達目標	一眼レフカメラを操り、ヘアデザイン、メイク、ネイル、物撮り、人物撮影など撮影の基本技術 の習得				
評価方法	課題作品により評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	プリント				

学科	美容科		担当教員	立花	
科目名	高度総合美容技術理論(毛髪化学)		学 年	2	実施時期 後期
授業形態	演習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 15
教育目標・ ねらい	サロン実務において必要な知識の習得				
授業回	学習内容			備 考	
1	化粧品の正しい理解	医薬品医療機器等法について学び、化粧品の定義を正しく理解する。			
2・3	シャンプーとトリートメントのリサーチ	現在、販売されているシャンプーやトリートメントのコンセプト、特徴、ターゲット層などを通してマーケティングを学ぶ。			
4・5	シャンプー成分の理解	実際にサロンや各家庭で使用しているシャンプーの成分の効果、効能、特徴などを学び、ニーズに合わせたシャンプーの提案力の修得。			
6～8	シャンプー作り	シャンプーの知識を用いて、コンセプト、ターゲット、内容成分などを決め、パッケージデザインを含め作成する。			
到達目標	美容技術の基礎をとなる理論の復習をし、就職後の実務において必要な知識を身につける				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は評価対象としない				
テキスト	ヘアケアマイスターブック				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	美容科		担当教員	高橋、深井、岡田	
科目名	高度総合美容技術実習		学 年	2	実施時期 前期
授業形態	実習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 300
教育目標・ ねらい	美容技術の基礎的知識、技能を身につけ、ビューティークリエイターとして必要な応用する力と想像力を高める。				
授業回	学習内容				備 考
1～12	サロンスタイル展開図 (ミディアムレイヤー)	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ミディアムスタイルを作成するための技術を 習得する。			36時間
13～24	サロンスタイル展開図 (ウルフレイヤー)	同上			36
25～36	サロンスタイル展開図 (ロング)	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ロングスタイルを作成するための技術を習得 する。			36
37～42	サロンスタイル展開図 (ショート1)	髪のを自由に表現するために必要なカット技術とブロー セット技術を応用し、ショートスタイルを作成するための技術を習 得する。			24
43～47	サロンスタイル展開図 (ショート2)	同上			24
48～60	サロンスタイル展開図 (メンズマッシュ)	同上			36
61～72	サロンスタイル展開図 (ベリーショート)	同上			36
73～84	サロンスタイル ヴァレアーージュ カラー	同上			36
80～85	作品撮影	自身の作品を記録するために必要な撮影技術を学ぶ。			12
86～90	来客実習	教員による施術（シャンプー、マッサージ、シェービング、ブロー）のサ ポートを行い、お客様からの信頼を得るプロセスを実践的に経験す る。			24
到達目標	ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタ イルをカタチにする技術を習得する。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験す ることができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、基 礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う				